

よりあいつうしん

26号

発行元

よりあいつうしん課

〒814-0104
福岡市城南区別府7丁目9-22

☎092-845-0707

制度に捉われない、支援

その人を支えるために本当に必要な支援とは何か？
本人を軸に支援を考えるならば、制度に捉われない視点を持つことが重要だと感じました。

宮本サツエさん。八十七歳。一人暮らしをされています。自宅近くで、ご主人と長い間パン屋を営んでこられました。自家製バタークリームパンが人気で、宮本さんはドーナツを揚げる担当だったそうです。

よりあいを利用し始めたころは自分で買い物に行き、食材や食べ物を買って、調理されていました。一人暮らしをしていく上で、大きな困りごとはなく、私たちがそこに介入することはありませんでした。社交的でお出かけ好きな宮本さんは、すぐに他のお年寄りや打ち解け、みんなで食べる食事やドライブを楽しまれるようになりました。

そのような日々がしばらく続いていましたが、ある日、お迎えに行くとゴミ出しを忘れていた事がありました。それからはゴミ出しの日に、



「今日はゴミ出しの日ですよ」と送った際に声掛けをすることにしました。最初はそれでよかったのですが、声掛けをしてもだんだんと忘れていく事が増えてきました。また、家での食事の様子も少しずつ変わってきました。焼き魚がグリルの中に入ったままになっていたり、買い物にも行かなくなってきました。帰りの時間が近づくと

「今日の晩御飯あるかなあ」と心配されるようになってきました。お年寄りの支援を考える上で、私たちは『本人を軸に考える』という視点を大切にしています。そしてそれは時に制度の枠を超えることもあります。



宅老所よりあいは認知症対応型通所介護です。ゴミ出しや買い物の支援などは、私たちが行わなくても、訪問介護サービスを短時間利用すれば解決できます。しかしながら宮本さんの介護度は要介護2です。介護保険制度では、要介護度によって使える単位数が限度額として決まっており、要介護度が低い程、その単位数も少なく設定されています。



宮本さんは、現在週五回デイサービスへ通っているため、訪問介護サービスを利用すると単位数が限度額を超えてしまいます。オーバーした部分は、普段一割負担で利用できているよりあいのデイサービスも全額自己負担（十割）となってしまふような制度設計となっています。金銭的負担面を考えると現在通っているデイサービスの日数を減らす必要があります。

もし制度に沿って支援を考えるのならば、『デイサービスの日数を減らし、短時間の訪問介護サービスを利用する』という事になると思います。しかしながらそれでは宮本さんの生活が良い方向に進むとは思えませんでした。



宅老所よりあい
堀 正晴
繁松 芙美

そこでどうするべきか話し合いをした結果、『送迎時にできる事をやろう』となりました。まず、火の元やこたつ、エアコンなどの切り忘れ、戸締りの確認。ゴミはよりあいへ持ち帰り（火曜日と金曜日）、よりあいへ出す。冷蔵庫の確認をして食べ物がなければ一緒に買い物に行く。という事にしました。買い物ではいつもと違うスーパーに行くこと、

「何を買ったらいいい？」と戸惑うこともありました。宮本さんの習慣を崩さないように、なるべくいつも行くスーパーに行くと、宮本さんのいつも行くルートで買い物をするように気を付けました。買い物に行けなかった時はお弁当を作ってお渡しすることもありました。

そういつた理由から、宮本さんの場合、訪問介護サービスを利用するのはなく、私たちにできることは対応していく方がいいと判断しました。

一人暮らしを希望されている宮本さん。『一人暮らしを継続して行う』という視点だけでは、制度上の支援で完結してしまいますが、『生活の豊かさ』という視点が最も重要ではないかと感じています。介護保険制度の中だけで支えようとする、暮らしの中のちょっとした不都合に手が届かない事が多々あります。そんな時に、お年寄りの暮らしを中心に捉え、制度内だけでなく、本当に必要な支援に目を向けることができる柔軟さを持ち続けていきたいです。

ソーメン流しへの熱き想い



令和五年八月一日によりあいの森にてソーメン流しをしました。これは毎年行なう恒例行事なのですが、もともと九年前、地域に住んでいたお年寄りのつなごりを持って始めたお年寄りのつなごりです。そのお年寄りは今年よりあいの森で暮らして、なんと八月一日が誕生日と言うことで、今年はお年寄りと同じく、ハッピーバースデーソーメン流しとなりました。

また、ソーメン流しで使用する「竹」は、よりあいの森で最期を取らせてもらった地域のお年寄り家族の持山から毎年いただいています。ちなみにお正月に玄關に飾る門松の「竹」もこちらの山から拝借しています。

この時期に「竹」を見るたびに、そのお年寄り達との濃い思い出を振り返り、盛り上がる事ができます。そして、今年はお年寄りと職員達だけでなく、よりあいの森とデッキでつながった古民家が集まる子供たちと親御さん、地域の方々も加わり、さらに楽しさと美味しさを増す事ができました。

初め頃は、デッキのみを使用してソーメン流しをしていましたが、この間、福岡市の夏の気温も異常な程に上がって、デッキの上を裸足では歩けないくらいになりました。そこで、今年は室内大広間に竹を設置して楽しむようになりました。

ただ、もっと遊び心溢れたものにした！と自己満足の炎にメラメラと火がつかましても、カーブを作ることはできないだろうか？大広間を通ってカーブを曲り、外に出ていくような仕様にしたい！との野望を抱くようになりました。

そこで、ホームセンターにて良い具合の配管パイプを発見し、流し台を作成してみると！見事に完成させる事ができました！

当日は、お年寄りはもちろんのこと、子供たち、お母さんたち、地域の方々も交わり大賑わいで、腕によりをかけて作成した自慢の流し台のカーブを、ソーメンが無事に通過するのを見て、心の中で一人ほくそえんでいました。

来年の流し台はどうしましょう。もっともっと工夫して、もっともっともっとみんなが感動するようなソーメン流しをしたい！と、これまた自己満足の炎がメラメラと燃え出しました。

二階から流して高速ソーメン流しとしてみてみる？はたまた二階のユニットを横断させる？？ユニットを完全制覇の流し台とか？？いつの間にかピタゴラスイッチの世界に入ってきたが、きつとみんなも喜んでくれるはずです！

よりあいの森 城取 利彦



台所の

女王たち



エリザベス・クレオパトラ・クローバー・クローバーCなど、これらは全て第二よりあいの食事ボランティアに求められるグループの名前です。この他にも、お一人やご夫婦で来てくださる方もいらっしゃいます。ありがたいことに、週に一、二回はボランティアさんが昼食の準備をしてくれています。

今回、ボランティアを始めて十年以上になるクローバーCの吉井さんと瀬尾さんにインタビューさせてもらいました。

◇ボランティアのきっかけは？

吉井さん 「退職をして、何か始めたいと思って、福岡市の青年センターだったかな。そこに尋ねていったのよ。思いうようなものがなかったんだけど・・・」

男性の職員の方から、食事ボランティアを探している人がいるって聞いてね。連絡した先が、村川さん（元利用者家族で、現在はボランティアで食事作りなど、よりあいを支えて下さっている方です）で、習って2回くらい一緒に食事を作ったかな〜

瀬尾さん 「村瀬さんの【ぼけてもいいよ】の講演会が公民館であったんですよ。その時に、村瀬さんが食事のボランティアを募集して下さって。それで、第二よりあいに食事作りに来るようになりました」

◇ボランティアを続けてこられて、思うことなど聞かせてください。

吉井さん 「他の方と料理を通して一緒に台所に立つことで、いろんな話ができるようになったの。それは、ちょっと一緒にランチに行くとか、そういう付き合いとは違う関係なのよ。それから、二十人近い人数の食事を予算内でと、あれこれ考える大変さと、楽しさと両方あるかな」

瀬尾さん 「吉井さんをはじめ、他のボランティアさんと知り合って、いろんなことを教えてもらったり・・・。食事作りのあとで、ここで一緒にご飯を食べながらいろいろ話ができるからね。あと、お年寄りがわざわざこっちに来て、美味しかったですよと言ってくれるのが、とても嬉しいですね」

そして、「ボランティアって言葉はあまり好きじゃないですよ。ご飯作りのお手伝いと思ってやっています。引き受けたからには楽しみながらね、やりたいなと思うんです」と締めくくられました。

カレンダーに記されたエリザベス、クレオパトラという文字を見た当初は、「女王？」と不思議に感じたことを思い出します。

インタビューを通して第二よりあいは、これまで多くのご飯作りをお手伝いして下さる方々の温かな手料理に、ずっと支えられていることを実感しました。

また、「引き受けたからには、楽しみながら」の言葉にすごく力をもらいました。その気持ちを持ちながら、私もお年寄りの暮らしを支えていきたいです。

最後に、今回ご紹介できなかったボランティアさんいらっしゃいます。よりあいのホームページ上のブログに

掲載していきますので、そちらもぜひご覧ください。

第二宅老所よりあい

日隈 留美

編集後記

今号ではボランティアさんの事を記事にさせて頂いてもらいました。コロナ禍でお手伝いして頂く事が難しくなりましたが、落ち着きを取り戻した現在、たくさんの方々が力を貸して下さいます。また、面会に来られたご家族の方々も「食器洗いますね」「洗濯物畳みましょうか？」など、以前のようにご協力して下さい、本当に感謝しております。

さて次号より編集長はよりあいの森・つうしん課の伊藤へ変わります。よりあいの実践を発信していく事に加え、現場で職員が感じた事、考えさせられた出来事など、みなさまに楽しんで頂ければとの想いで作成して参りました。

よりあいつうしんを読んでの感想をたくさんの方から頂けた事は、大変嬉しく、励みとなりました。本当にありがとうございます。今後も伊藤を中心として、つうしん作成に尽力して参りますので、何卒よろしくお願ひいたします。

よりあいの森 堀 正晴

介護職員募集中

宅老所よりあい・よりあいの森にて、一緒にお年寄りの暮らしを支えてくれる介護職員さんを若干名募集しています。ご興味のある方は、ご連絡いただけたらと思います

